

日本特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

09/889119
PCT/JP99/06926

09.12.99

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application:

1999年 1月11日

出願番号
Application Number:

平成11年特許願第042063号

出願人
Applicant(s):

梅原 初代

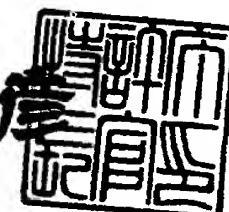
REC'D 29 FEB 2000

PRIORITY
DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 2月14日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近藤 隆



出証番号 出証特2000-3005023

【書類名】 特許願
【提出日】 平成11年 1月11日
【あて先】 特許庁長官 殿
【発明の名称】 卵
【請求項の数】 1
【発明者】
 【住所又は居所】 長野県伊那市大字伊那部 5466-7
 【氏名】 梅原 初代
【特許出願人】
 【住所又は居所】 長野県伊那市大字伊那部 5466-7
 【氏名又は名称】 梅原 初代
 【電話番号】 0265-78-1679
【提出物件の目録】
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 卵

【特許請求の範囲】

【請求項1】

鶏卵等の卵殻に傷を付けることなく中の卵の身の表面の卵白の地に卵黄で、または卵黄の地に卵白で文字または模様を描いたゆで卵。表面が全面卵黄である場合もこれに含まれる。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は卵黄が卵の中央に集中していないゆで卵に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

例えば公開特許公報平2-249469には卵殻に模様状をなした細小な穴加工を施した卵に着色剤を浸透させて卵白に模様を描く方法が記されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

前記公報の考案には次のような問題がある。

卵殻に傷を付け、着色剤を浸透させ、穴を塗装またはシールしなければならないのでバクテリアが侵入する可能性が高く衛生上の問題がある。また衛生状態を維持するために多くの費用と注意を必要とするため生産コストも上昇する。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本考案では以上の課題を解決するために特願平10-197957により製造された卵殻に傷をつけることなく卵黄膜を破った卵を使用する方法を採用した。

【実施例】

【0005】

特願平10-197957により製造された卵の卵殻の中は卵黄と卵白の比重の差により卵黄が上に卵白が下に位置している。模様または文字の描画は卵殻の

外から加熱した鎌や印等で接触することにより、またはレーザーや赤外線等を照射することにより模様または文字を描く部分を卵黄または卵白の凝固温度以上に加熱することによって行う。

【0006】

卵白の地に卵黄で文字または模様を描く方法は次のとおりである。上記の部分的加熱を特願平10-197957により得られた卵殻に傷をつけることなく卵黄膜を破った卵の上方に行えば加熱された部分の黄身が卵殻の内側に付着した状態で凝固する。この卵をゆっくり回転させながらゆでれば外側に卵白が卵黄の文字または模様を囲んで凝固し、残りの卵黄は中心部に集まって凝固する。こうして卵白の地に卵黄で文字または模様が描かれたゆで卵を得ることができる。

【0007】

逆に卵黄の地に卵白で文字または模様を描く方法は次のとおりである。上記の部分的加熱を特願平10-197957により得られた卵殻に傷をつけることなく卵黄膜を破った卵の下方に行えば加熱された部分の白身が卵殻の内側に付着した状態で凝固する。

【0008】

この玉子を特願平10-197957に示す回転加熱装置で回転させながら上方から加熱して玉子の表面に凝固した卵黄の層を作る。これを茹でると玉子の身の表面には卵黄の地に卵白で描かれた文字または模様が形成される。こうして卵黄の地に卵白で文字または模様が描かれたゆで卵を得ることができる。この方法で模様または文字を描く工程を省くと表面が全て黄身のゆで卵を作ることができる。

【0009】

卵黄の地に卵白の模様または文字を描くもう一つの方法は次のようである。正常な生卵の表面を上記の方法で部分的に加熱する。すると加熱した部分では卵殻の内側に卵白が付着した状態で凝固する。この卵を特願平10-197957で述べた卵の回転装置を使って卵黄膜を破る。そして特願平10-197957に示す回転加熱装置にかけ玉子の表面に凝固した卵黄の層を作る。これをゆでれば卵黄の地に卵白の模様または文字が描かれた卵を得ることができる。

【0010】

【発明の効果】

本考案は以下に記載する効果を發揮する。

【0011】

このようにして作られたゆで卵は殻には何の加工も施されていないので通常のゆで卵のように見える。ところが殻をむくと模様または文字が出てきたり表面が黄身であったりする。そのためこのようなゆで卵は意外性に富み、興をそそるという効果がある。

【0012】

本考案は多様性を与えることにより食材としてのゆで卵の利用範囲を拡大でき、卵の付加価値を高める。

【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 卵殻に傷をつけることなく身の表面に卵黄または卵白で文字又は模様を描いた卵殻付ゆで卵を得る。

【構成】 生卵の卵黄膜をやぶる。この卵の卵黄又は卵白の位置を制御して部分的に凝固させ文字または模様を形成し、最後に全体をゆでる。

出願人履歴情報

識別番号 [599021734]

1. 変更年月日 1999年 1月11日

[変更理由] 新規登録

住 所 長野県伊那市大字伊那部5466-7

氏 名 梅原 初代

